つかむ | 調べる | まとめる | 深める

～問題意識をもち，米づくり農家の仕事の意味を考えながら調べる活動～

１．小単元名『米づくりのさかんな地域』

（教科書：『小学社会５上』p.56～73／学習指導要領：内容（２）ア，ウ）

２．小単元の目標

日本の米づくりについて調べ，食料生産に携わる人々が生産を高めるために工夫や努力をしていることや，自然環境を生かしていること，生産や輸送の費用と米の価格への影響などに目を向け，日本の米づくりの現状と課題を捉えさせる。

３．小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の米づくりの様子に関心をもち，その様子や課題について意欲的に調べるとともに，国民生活を支えている農業の重要性や発展について考えようとしている。	日本の米づくりの様子から学習問題を見出し，予想や，それを解決するための学習計画を立て，国民生活を支えている食料生産の重要性や農家の人々の工夫や思い，自然環境との関わりについて考え，適切に表現している。	写真や地図，グラフなどの資料を活用しながら，日本の米づくり農家の工夫や抱えている課題などを読み取っている。	国民生活を支えている米づくりが，農家の人々の様々な工夫や努力によって支えられていることや，米づくりと自然環境との関わり，様々な課題に対応するための新たな取り組みの大切さについて理解している。

４．指導にあたって

（１）教材について

本小単元の事例地である新潟県南魚沼市では，広い平野部ではなく中山間地域で，付加価値を高めた米づくりが行われている。そのような米づくりを調べていくなかで，自然環境を生かしたり，様々な課題を克服したりしながら生産している農家の取り組みの意味について，考えを深めることができる。また，国土の環境保全，文化・技術の伝承などにも触れ，農業という営みを多面的に捉えさせることもできる教材である。

（２）指導上の工夫・留意点

児童にとって必ずしも身近ではない米づくりについて，「自分事」として捉え，学習ができるようにするために，「自分たちが主食としている米は，どのように生産されているか」について関心を高め，調べていく。そして，生産者の立場，消費者の立場になって，それぞれの思いや願いを考えられるようにしたい。そのために，**社会的事象の事実のみを調べるのではなく，「なぜそのようなことをするのか」という社会的事象の意味を考えながら調べられるように**したい。また，米づくりを取り巻く課題についても関連付けを図り，これからの米づくりについて考えを深めさせるようにしたい。

５．小単元の指導（総時数９時間）

時数	ねらい	○学習活動
①（つかむ）	米袋や都道府県別の米の生産量の資料をもとに，米づくりのさかんな地域はどこかを捉え，その地域の米づくりについて調べたいことを話し合い，学習の見通しをもつことができるようにする。	○日本の米の生産がさかんな地域はどこか，資料を読み取って調べ，その地域での米づくりについて調べたいことを話し合い，学習問題をつくる。
①（調べる）	写真や地図，雨温図などの資料から，南魚沼市の自然条件や土地利用の特色について調べ，南魚沼市の米づくりが気候や土地の特徴を生かして行われていることを捉えられるようにする。	○雨温図，土地利用図などをもとに，南魚沼市の土地や気候の特色について調べ，米づくりとの関係を捉える。
①（調べる）	米づくりの１年間の仕事の様子について調べ，収穫までに様々な作業を行う必要があることを捉えられるようにする。	○今井さんの１年間の米づくりの仕事の様子について，具体的な資料をもとに調べる。
①（調べる）	今井さんの１日の仕事の様子について調べ，確実性，安全性，環境などに配慮した米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。	○今井さんの１日の仕事について資料をもとに調べ，具体的な取り組みから生産者と消費者それぞれの願いに気づき，米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。
②（調べる）	効率性，確実性，安全性，環境などに配慮した米づくりの取り組みについて調べ，米づくりに携わる人々の工夫や努力を捉えることができるようにする。	○様々な資料をもとに，米づくりの工夫や努力について具体的な取り組みを調べ，その取り組みの意味について話し合い，まとめる。
①（調べる）	米の消費量の減少，農業従事者数の減少，国産と外国産の価格競争といった日本の米づくりの課題について調べ，日本の米づくり農家の抱える課題について捉えることができるようにする。	○米の生産量と消費量の変化をグラフから読み取り，日本の米づくりの現状について具体的な資料から調べ，日本の米づくりが抱える課題について考える。
①（まとめる）	米づくりの様々な課題を解決するための取り組みについて調べ，これからも生産を続けていこうとする農家の人たちの工夫や努力，思いについて捉えることができるようにする。	○様々な資料をもとに，米づくりに携わる人たちの工夫や努力，思いや願いについて話し合う。
①（深める）	これまで学んできた米づくりの様子や今井さんの話から，水田が地域に果たす役割を捉えるとともに，米づくり農家の思いや願いについて考えることができるようにする。	○これまでの学習を振り返りながら，今井さんの話をもとに米づくりや水田が果たす役割について捉え，米づくり農家の思いや願いについて考える。

６．本時の指導（第４／９時）

（１）本時のねらい

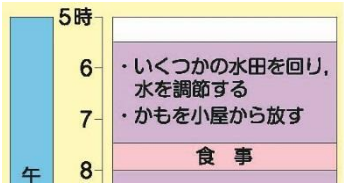
今井さんの１日の仕事の様子について調べ，確実性，安全性，環境などに配慮した米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。

（２）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では，まず，今井さんの１日の仕事の流れを調べ，雑草を取り除いたり肥料や農薬をまいたりすることに多くの時間が割かれていることを読み取る。その際，雑草を取る作業の真似をするなど，他人事ではなく自分事として農業を考えやすくする活動を取り入れるのもよいだろう。その後，**なぜそのような仕事をしているのか考えながら，具体的な取り組みを調べる。**そのうえで，「今井さんはどのようなことに気をつけているといえるか」について話し合うことで，生産者として工夫をしていること，消費者の立場になって工夫をしていることに気づくことができるようにする。また，**生産者・消費者の思いや願いといった視点で考えることで，確実性，省力化，おいしさ，安全・安心といった，米づくりに必要な工夫や努力の方向性（価値観）についてまとめ，**次時以降でそれぞれの観点から具体的な取り組みについて調べようとする意欲を高めたい。

このように授業を展開することで，ただ調べてまとめるのではなく，**生産者の立場になって自分事として米づくり農家の仕事について捉え，その意味を考えられるようにしたい。**

（３）本時の展開

時配	○学習活動　T：発問　C：児童の反応	◎資料　◇留意点　◆評価
10	○今井さんの１日の仕事の様子を調べ，課題をつかむ。 T：前の時間では，米づくりの１年間の様子を調べました。今日は，今井さんの１日の仕事を見ていきます。まずは何をしているでしょうか。 C：田の水を調節して管理をしているね。 C：「かも」を小屋から放すのは，なぜかな？ C：食事前にも仕事をしていて大変そうだな。 T：**確かに「かも」は何のためかわからないけれど，水を調節するとはどういうことかな？ 何のためなのかな？** C：水の量は米づくりと深い関係があるのかな。 T：次に，午前中は何をしているかな？ C：雑草を取り除いたり，肥料や農薬をまいたりしている。 T：これは，日によってやることが違うかもしれませんね。では，午後は違う仕事をしているのかな？ C：午後も同じような仕事をしていて，驚いた。 C：そもそも肥料や農薬はなぜまくのだろう。 T：今井さんの作業は，それぞれ何のためにしているのかな？ また，どのようなことに気をつけているのかな？	◎ウ ６月～７月ごろの，今井さんの１日の仕事（教科書５上 p.62）  ◎ア 用水路のバルブ ◎イ バルブを開き，水田に水を入れる様子（同 p.62） 問い返し，疑問をもたせる。 資料を段階的に提示して，雑草の除去と肥料や農薬の散布に長い時間を費やしていることに驚きをもたせる。

	課題 今井さんが，米づくりをするなかで気をつけていることはなんだろう。	
10 10	○今井さんの１日の仕事について調べる。 ○今井さんが，どのようなことに気をつけて仕事をしているかについて，調べたことを発表する。 T：今井さんは，どのようなことに気をつけて仕事をしていましたか？ C：三日に一度はどの水田も見に行き，水を管理していた。 C：水は，気温の変化，強風，雑草の成長から稲を守ってくれるので，大切だと思った。 C：「かも」は，雑草や害虫を食べていた。 C：「かも」は，稲を丈夫にしたり「ふん」が肥料になったりするので，米づくりの役に立っていた。 C：「かも」を放して農薬の回数を減らすことで，環境のことを考えた，おいしい米づくりを目ざしていた。	◎エ水田に放された，かもの群れ ◎オかもの役割（同 p.63） ◆写真やイラストなどの資料を活用しながら，米づくり農家の工夫を読み取っている。 （技能／ノート，発言）
10	○今井さんの仕事の意味について話し合い，まとめる。 T：今井さんはどのようなことに気をつけているのかな。 C：水を管理し，**確実に**稲を育てようとしている。 C：「かも」を放し，農薬をまく回数を抑えようとしている。 T：農薬を使わないようにすると，何がよいの？ C：使いすぎると人体に影響があるから…。 C：安心な米をつくろうとしていると思う。 T：誰にとって安心かな？ C：食べる人，**消費者にとって安心**。 C：化学肥料を減らし，土が固くならないようにして，環境にも配慮している。 T：生産者である今井さんは，確実に稲を育てることと，消費者のために安心でおいしい米をつくることに気をつけているね。	◇消費者は，食の安全性について高い関心があることに触れ，消費者の立場を考える必要性について理解できるようにする。 ◇生産者と消費者それぞれの願いから，米づくりに必要な工夫や努力の方向性を考え，具体的な取り組みについても考えられるようにする。 「何のための工夫か」を表現することで，農家の仕事の意味について理解できるようにする。
5	○次時への見通しをもち，学習感想を書く。 T：昔からずっと同じように米をつくっているのでしょうか？ 何か他に，確実に，おいしい米をつくる工夫はしていないのでしょうか？ C：機械を使うことで，確実に田植えや収穫ができそうだ。 C：いろいろな種類の米があるのも，工夫の一つなのかな？ C：米の種類によって，おいしさが違うのかな？	◇次時以降，農家の人たちの工夫について調べていくことを伝え，調べるための見通しをもつことができるようにする。